

科目名	歴史	科目コード 026
-----	----	--------------

学年・学科等名	3 学年	全学科	必修科目
単位数・開講期	2 単位	通年	
総時間数	60 時間		
担当教員	根本 聡		

本校の教育目標	1	一般人文科の教育目標	3
---------	---	------------	---

JABEE関連	教育プログラム科目区分	
	教育プログラムの学習・教育目標	
	JABEE基準	

教科書名	明解新世界史A 新訂版(帝国書院)
補助教材	最新世界史図説タペストリー(帝国書院)
参考書	随時紹介する。

A. 教育目標

本授業は、多種多様な人間集団の相互関係を把握し、一国のみにかたよらない多面的な考察を行なうことに重点がおかれる。それによって、各地域の文化を理解しながら、グローバルなものの見方をつちかうことが目指される。その際、国際社会に生きるうえで必要な最低限の知識を身につけることが第一の基本的な目標であり、異文化理解力や歴史的思考力をやしなうことが第二の目標である。さらに、文明の底流にある思想・宗教の意義を理解することによって、第一・第二の目標に近づくことが第三の目標となる。総じて、環境と文明のおりなす相互関係と力学を考察することを目指す。

B. 概要

第一に、人類史の観点にたつて、オリエント、中国、インド、地中海に成立した諸文明に焦点をあてる。第二に、現代世界の形成過程について、16世紀以降を画期とする、世界が一体化していく展開に注目しながら、近現代史の理解を深める。第三に、「科学革命」以降の科学・技術の進展と学問・思想の系譜をたどることによって、科学や技術のもつ意義と現代社会がおかれている位置を把握する。第四に、近現代史の国際関係を包括的にとらえて、現代の諸問題に対する歴史的認識力を高める。

C. 学習上の留意点

歴史の大きな流れや推移の必然性を俯瞰できるような総合的な把握力をつけることが、肝要である。そして、いろいろな問題・テーマに対して、知的好奇心をもって、自主的に文献にあたって調べるという、意欲と姿勢が大切である。その際、知力の基礎としての読書に大いに励んでもらいたい。また、小さな疑問であっても、積極的に質問にきて欲しい。授業では、細部よりも全体の流れに留意し、あとで記憶の手がかりになるように、まめにノートするように。こちら、図解などを交えて明解さを心がける。なお、世界史と日本史との関連性、すなわち歴史の横糸を把握する眼を養うために、補助教材を有意義に利用することが望ましい。

D. 評価方法

試験(100%)

E. 授業内容

授業項目	時間	内 容
0. オリエンテーション わたしたちと世界史	4	歴史とは何か、世界史の意義、人類史的視野の重要性について理解することができる。
1. 諸文明の歴史的特質 (1)オリエント(中東とエジプト) (2)中華帝国と周辺諸民族 (3)インドと東南アジア (4)地中海	10	人類史の観点で、オリエント、中国、インド、地中海に成立した諸文明を考察することで、農耕民と遊牧民の葛藤のなかから古代帝国が成立する過程を動的に把握することができる。なお、各地域の風土・環境に対する理解を深めることができる。

授業項目	時間	内 容
(前期中間試験)	1	
(5)イスラム文明 (6)ヨーロッパ文明の活性化	8	海陸にわたって商業ネットワークを築いたイスラム文明の特質を理解することができる。 ヨーロッパ世界の成立と同時代の他の諸文明との関係を理解することができる。
2. 一体化する世界 (1)16世紀のヨーロッパ (2)拡大する近世ヨーロッパ (3)アジア諸国の繁栄	7	大航海時代の意義とヨーロッパの物質文明の特質、さらに宗教改革の時代をヨーロッパ内部の状況をふまえて理解することができる。 「17世紀の危機」と科学革命の意義を理解することができる。 イスラム世界の再編成と中国の動向(明・清)をふまえて、世界の一体化の過程を捉えることができる。
(前期末試験)		
(4)近代の欧米社会 (5)国民国家への道 (6)ヨーロッパの進出とアジア (7)帝国主義の時代	14	イギリス産業革命とフランス革命の同時代性に着目し、両革命が人類に与えた影響を理解することができる。しかも、アメリカ独立革命からナポレオン戦争を経てウィーン体制に至る、革命の伝播および学問・科学技術の発展の過程について、複合的な視野から理解することができる。 革命を経て市民的自由と権利を確保し、近代国家として出発した経緯を理解することができる。とくに、ナポレオン戦争後、自由主義と社会主義の思想が生まれる一方で、人々の考え方が根底から変わってきたことを理解することができる。 ロシアの南下政策、オスマン・トルコの状況、インドの英領化、中国・朝鮮・日本の開国等の諸問題を、ヨーロッパ側からの視点だけではなく、地球規模の変動の一環として捉えることができる。 アジア・アフリカの分割をめぐる五列強の動向と第一次世界大戦に至る道を理解することができる。
(後期中間試験)	1	
3. 現代世界と日本 (1)20世紀の特質 (2)二つの世界大戦 (3)東西陣営の対立 (4)20世紀から21世紀へ	13	戦争と革命によって生じた現代世界の特質を理解することができる。 ヴェルサイユ体制の歪みと世界恐慌の波及によってファシズムが台頭し、世界大戦へ突入する過程を総合的に捉えることができる。 冷戦から共存へかわる1970年頃までの状況について、東西陣営内部の争いと第三勢力の結集をふまえて理解を深めることができる。 国際関係の再編成と諸地域の動向をふまえて、ポスト冷戦期の諸問題について説明することができる。
4. おわりに 環境と文明	2	環境と文明のおりなす関係を総合し、地域に根ざしつつグローバルに諸問題を考えることができる。
(学年末試験)		

F. 関連科目

社会、歴史、地理、法学、経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、政治学、史学、哲学、国際関係論、国語、英語、文学、自然科学概論、心理学